



令和7年度（2025年度）

第 1 回 定 例 庁 議

令和7年4月7日(月)午前8時30分～
第一応接室（担当：総合戦略室 内線1111）

1 報告事項

- (1) 総合戦略会議の開催について……………（総合戦略局）
- (2) 脱炭素先行地域における小水力発電事業に係る公募型プロポーザルの結果について
……………（環境エネルギー部）
- (3) 気候市民会議まつもと「ゼロカーボン市民アクションプランinまつもと」について
……………（環境エネルギー部）
- (4) 松本市EVカーシェアリング事業の開始について……………（環境エネルギー部）

庁 議 日 程 に つ い て

第2回定例庁議	4月21日(月)	8時30分～
第3回定例庁議	5月 7日(水)	8時30分～

(報告事項)

庁 議 資 料
7. 4. 7
総合戦略局

総合戦略会議の開催について

1 趣旨

令和7年度の総合戦略会議の開催について報告するものです。

2 目的

部局横断的な政策議論が必要な重要課題や新たに着手すべき施策について、戦略的かつ戦術的な議論を行い、ビジョンを共有することで早期の施策立案、政策反映につなげるもの

3 開催予定

4月18日（金）、21日（月）、22日（火）
（予備：24日（木））

4 内容

第12次基本計画の策定を控えていることから、第11次基本計画の総まとめを行い、「三ガク都のシンカを日常に」するため、重点戦略ごとにポイントと課題を整理した論点を設定し、今後の方向性や取組みを議論します。

5 出席予定者

市長、副市長、総合戦略局長、総務部長、財政部長
各テーマ及び論点に関連する部局長及び関係課長

6 その他

- (1) 論点やテーマについては調整の上、各部局に対し、資料の作成を依頼します。
- (2) 各部局が個別に求める論点がある場合には、別途調整します。
- (3) 開催日時及び当日の進め方等については、別途周知します。
- (4) 会議の指示指摘事項は、実施計画第56号の検討に反映するものとします。

担当 総合戦略室
次長 石井 貴文
（内線 1111）

庁議資料
7. 4. 7
環境エネルギー部

(報告事項)

脱炭素先行地域における小水力発電事業に係る公募型プロポーザルの結果について

1 趣旨

国の脱炭素先行地域に選定された乗鞍地区における再生可能エネルギー導入の主軸として計画を進めている地域主導型・地域裨益型の小水力発電事業について、設計施工事業者の選定を目的に実施した公募型プロポーザルの結果を報告するものです。

2 経過

- 4. 4. 26 環境省が第1回脱炭素先行地域選定結果を公表
- 6. 12. 12 建設環境委員協議会で小水力発電事業の取組状況について報告
 - 20 のりくら小水力発電事業者選定実行委員会（以下「実行委員会」という。）が、小水力発電事業に係る公募型プロポーザルを公告
- 7. 1. 14 建設環境委員協議会で中間評価への対応について報告
 - 20 中間評価に係る指示事項に対する報告書を国へ提出
 - 2. 18 環境省が中間評価の結果を通知
 - 27 環境省が中間評価の全体結果を公表
 - 28 事業者1社が、公募型プロポーザルに係る技術提案書を実行委員会へ提出
- 3. 7 建設環境委員協議会で中間評価の結果について報告
 - 12 実行委員会が、公募型プロポーザルに係る審査会を開催
 - 17 のりくら高原ミライズ構想協議会小水力発電プロジェクトチーム（以下「小水力発電プロジェクトチーム」という。）を開催し、審査結果を確認
 - 25 実行委員会が、提案事業者に対し審査結果を通知
- 4. 3 建設環境委員協議会で公募型プロポーザルの結果について報告

3 審査結果

審査を行った結果、技術評価点が基準に達しなかったため、設計施工契約に係る優先交渉権保有者の決定に至りませんでした。

4 技術評価点が基準に達しなかった主な理由

工期短縮のために、速やかな許認可の取得及び乗鞍地域の地形、地質、積雪期への考慮等、施工に対する創意工夫が施された技術提案を求めていましたが、提案事業者の提案内容やこれまでの実績、経験等からは、脱炭素先行地域の交付金計画期間内の施工完了が可能かどうかという点において、その懸念の払拭に至りませんでした。

5 審査結果を踏まえた小水力発電事業の取扱い

審査会后、小水力発電プロジェクトチームにおいてプロポーザル結果の確認を行い、交付金の交付期間が残り約3年となる中、脱炭素先行地域のスキームにおいて小水力発電事業の進捗を図ることは困難であることを確認しました。

6 今後の進め方

- (1) 小水力発電事業による脱炭素先行地域の実現が困難となったことから、代替案として並行検討に着手している太陽光発電事業により脱炭素先行地域の実現を目指すこととし、手法や事業スキーム等について更なる検討を進め、具体化を図ります。
- (2) 太陽光発電事業の取組内容がまとめ次第、改めて事業の骨子を報告します。

担当 環境・地域エネルギー課 課長 鈴木 博史 (内線1440)
--

気候市民会議まつもと 「ゼロカーボン市民アクションプラン in まつもと」について

1 趣旨

「2050年カーボンニュートラル」の実現を目指して、令和4年度に改定したまつもとゼロカーボン実現計画に掲げた目標を達成するため、市民自らが具体的な行動を検討する気候市民会議を信州大学と共に開催し、行動変容策として「ゼロカーボン市民アクションプラン in まつもと」がまとまりましたので、報告するものです。

2 経過

- 5. 5. 4 信州大学から松本市と連携した気候市民会議開催について相談
- 8 第3回あつぎ気候市民会議の視察
- 6. 6. 2 あつぎ気候市民会議報告会への参加
- 6 6月補正予算にて計上
- 7. 9 無作為抽出した市民5,000名に案内状を送付
- 8. 6 定例庁議で気候市民会議開催について報告
- 8. 20 建設環境委員協議会で気候市民会議開催について報告
- 8. 中旬 参加者50名を決定
- 9. 7 第1回気候市民会議開催（テーマ：気候変動の現状について）
- 28 第2回気候市民会議開催（テーマ：気候変動対策について）
- 10. 26 第3回気候市民会議開催（テーマ：気候変動対策の検討①）
- 11. 16 第4回気候市民会議開催（テーマ：気候変動対策の検討②）
- 12. 14 第5回気候市民会議開催（テーマ：市民アクションプランの検討①）
- 7. 1. 25 第6回気候市民会議開催（テーマ：市民アクションプランの検討②）
- 3. 22 市長出席のもと気候市民会議まつもと報告会を開催

3 気候市民会議の成果

性別、年齢層、地区、そして気候変動問題に対する市民意識の状況を考慮し、松本市の縮図となるよう50名が選定され、その参加者が全6回の会議を通してアクションプランをまとめました。

(1) 参加者の意識変革

会議開催前に、無作為抽出した市民5,000名を対象に「気候変動と脱炭素社会に関するアンケート調査」を実施しました。「温室効果ガス排出削減するにはどの手法が効果的か」という質問に対し、何が効果的かわからないといった回答を6人に1人がしていました。

しかし、最終回の第6回の会議では、参加者全員が個々の意識の変化を明らかにし、前向きに取り組む意向を示しました。また、「会議を通してこれから自分たちは何をすれば良いのかが分かった。学んだことを周囲に広めていきたい」といった意見や、「休日は車を使わずに歩くようになった」、「家の断熱を自分でやってみた」など既にアクションに移している参加者も多くいました。

(2) 市民アクションプラン

アクションプランは参加者の興味のある4つのテーマ（「再生可能エネルギー」、「住まい」、「交通・EV普及」、「気候変動適応・ライフスタイル」）に基づいて検討し、20の市民アクションと50の具体的なアクションにまとめられました。全体として、気づきやできることから始めるという、自分事と捉えて行動してみたいと思えるアクションとなっています。参加者の推進意向を客観的に把握し、今後の政策推進に活かすため50の市民アクションに関する推進意向投票を実施しました。結果は、ほぼすべての項目について強く推進すべきという評価が示されました。

ア スタート地点

気候変動対策の入口へ一歩踏み出すために、家庭のCO₂排出量を「見える化」するなど、自分ができる気候変動対策を把握することを目指すものです。また、気候変動対策について具体的に対話や相談をする場を活用したいとの声も多くありました。

イ 再生可能エネルギー

自宅への太陽光発電の導入が難しい人にも、再生可能エネルギー比率の高い電力を選ぶことができるなど、再生可能エネルギーによる電力の地産地消を目指すものです。

ウ 住まい

新築、既存住宅など自身のライフプランに合った省エネ導入の取組みを目指すものです。

エ 交通・EV普及

公共交通機関の利用や、電気自動車などCO₂排出量削減を狙い、同時に徒歩や自転車を使用することで移動そのものを楽しみながらゼロカーボンにつながるまちづくりの実現を目指すものです。

オ 気候変動適応・ライフスタイル

農産物や家電製品など、あらゆるものの生産や流通、消費がCO₂の排出を伴います。地場の商品や省エネ型製品の購入など日々の消費がゼロカーボンにつながることから、誰でもすぐにできる取組みを取り入れたライフスタイルを目指すものです。

5 市民アクションプラン概要版

別紙のとおり

6 市民アクションプラン本編

別冊のとおり

7 今後の予定

- (1) 次回開催の市議会建設環境委員協議会に報告します。
- (2) 各市民アクションに取り組む市民を支える施策をゼロカーボン推進本部会議で検討します。
- (3) 関係機関等と連携し、ゼロカーボンに係る対話の場のあり方について検討します。

担当	環境・地域エネルギー課
課長	鈴木 博史
	(内線 1440)

ゼロカーボン 市民アクションプラン in まつもと



会議の経過

2024

9/7 第1回 テーマ: 気候変動の現状について

- 専門家による講義と質疑応答: 気候変動問題の基礎、長野県における気候変動と影響
- グループ討議: 学んだこと、疑問や心配なこと
- の共有

気候危機は
「遠いどこか」の
問題じゃない



世界から
松本市までが
ゼロカーボン
を目指している



9/28 第2回 テーマ: 気候変動対策について

- 専門家による講義と質疑応答: 長野県の取組み、松本市の取組み
- グループ討議: 政策について疑問点や気候変動対策を進めるうえで大切だと思うことの共有

対策には地球に
やさしいだけでなく、
お財布にも
やさしいものがある



10/26 第3回 テーマ: 気候変動対策の検討①

- 専門家による講義と質疑応答: 地域活動の紹介、太陽光発電・電気自動車について
- グループ討議: テーマ別の取組みのグループの検討

11/16 第4回 テーマ: 気候変動対策の検討②

- 専門家による講義と質疑応答: 家庭の気候変動対策、カーボンフットプリントの見える化
- グループ討議: 市民アクションプランのアイデア・リストづくり

もう動いている
人びとが
たくさんいる



12/14 第5回 テーマ: 市民アクションプランの検討①

- 専門家による講義と質疑応答: 他地域の気候市民会議の成果例、松本市の交通まちづくり政策とゼロカーボンの関係、市民にしかできないミッションとは
- グループ討議: ポスターセッション、アクションプラン案への意見出し

2025

1/25 第6回 テーマ: 市民アクションプランの検討②

- 専門家による講義と質疑応答: 他地域の気候市民会議のその後について
- グループ討議: 素案をもとにアクションプラン最終案の完成

気候市民会議まつもと実行委員会

ゼロカーボン

ZERO CARBON

市民アクションプラン

in まつもと



スタート地点

「じぶんごとプラネット」というコンテンツで
自分のCO₂排出量を計算することができます！



1 気候変動対策の入口へ一歩踏み出そう！

- 気候変動を身近に感じる機会に参加しよう
- アプリアなどを使って、自身や家庭のCO₂排出量を「見える化」してみよう
- 市民が気候変動対策を進めるための相談窓口を活用するなどして、自分ができる気候変動対策を把握しよう



再生可能エネルギー



松本市では太陽光発電設備の補助金もあります！
また、初期費用がかからない「0円ソーラー」も選べます！

2 自宅の電力を太陽光発電で 自給できるって、すごい！

- 信州屋根ソーラーポテンシャルマップで自宅の発電可能性を確認しよう
- 自宅の屋根等に太陽光発電を検討・導入しよう
- ライフスタイルに合わせて電気自動車(EV)や蓄電池を活用しよう

3 再エネ比率の高い電力を 選べるって、知ってる？

- 発電メニューで電力会社を比べて選べることを知ろう
- 再エネ比率の高い電力を選択しよう

4 電力も地産地消ができるっていいな！

- 地域に必要な再エネの量を知り、地域の特性に合った導入を後押ししよう

- 災害時の自立など地域の課題解決につながる取り組みを支持し、市民としての関わり方を見つけよう
- 地域主導の再エネ事業を応援しよう

5 熱も再エネで賄えたら、 心も身体もあたたまる！

- 太陽熱温水器やおひさまエコキュートを検討・導入しよう
- 薪やペレットなど木質バイオマスストーブを検討・導入しよう

6 再エネで暮らしを豊かにする方法、 知っていませんか？

- 再エネに関して総合的な情報を扱うウェブサイトや広報紙にアクセスしよう
- 住まい方やライフスタイルに合わせた再エネの活用方法や経済的メリットがあることを知ろう



住まい



ZEHとは、太陽光パネルなどを取り付けて、年間のエネルギー消費量を実質ゼロにした住宅のことです。

7 自宅のエネルギー使用量、 考えてみたことある？

- 住宅の室温や電気・燃料の使用量を把握し、できることを家庭や所属するコミュニティで共有しよう
- 住宅のエネルギー効率化(省エネ)について専門家に相談してみよう

8 断熱が効果的って、もっと広げたい！

- 断熱に関する情報・メリット・方法を共有し、実践する仲間を増やそう
- 断熱ワークショップを地元企業と連携したりして企画・実行しよう

9 ゼロカーボンにつながる住宅、 あるんです！①ZEHという選択

- 新築時にはゼロエネ住宅(ZEH)を選択しよう
- リフォーム時にもゼロエネ住宅を検討・選択しよう

10 ゼロカーボンにつながる住宅、 あるんです！②既存住宅の断熱化

- 住宅の断熱改修の可能性を調べよう
- 開口部(例えば窓)などを重点に工夫して断熱しよう

11 賃貸、中古住宅でも ゼロカーボンを実現したい！

- 賃貸・中古住宅を検討する際に、断熱性能の高い住宅を選択しよう
- 賃貸・中古住宅を検討する際に、不動産事業者に物件の断熱性能を確認し、断熱住宅の需要が高いことを知らせよう



ゼロカーボンってなに？

ゼロカーボンとは、企業や家庭が排出する二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」から、植林・森林管理などによる「吸収量」を差し引いて、排出量の合計を実質的にゼロにすることを意味します。



このまま何もしないと、猛暑日、熱帯夜が増え、冬日は少なくなります。また滝のように降る雨が増え、一方降水の無い日も増えていきます



交通・EV普及

サイクルツーリズムとは、自転車を利用した観光を指します。

12 公共交通をもっと利用すれば、もっと充実させられる！

- 公共交通とゼロカーボンがつながっていることを知ろう
- 公共交通の利用回数を月2回以上増やそう
- さらに利用を増やして公共交通機関の自動車のEV化を求めよう

13 電気自動車(EV・PHEV)でゼロカーボン・ドライブ♪

- 市のEVカーシェア事業などを通じてEVを体験してみよう
- 自動車を買換える時にはEVを選択しよう
- 充電環境がまだ整わない人はハイブリッド車などエコカーを選択しよう

14 徒歩や自転車で移動を楽しもう♪

- 徒歩移動の魅力や効用を発見し、街歩きを楽しもう
- 個人所有の自転車だけでなくシェアサイクルを活用しよう
- サイクルツーリズムなど自転車を活用した街の魅力を広めよう

15 ゼロカーボンにつながるまちをつくらう！

- 移動に伴うCO₂排出量を把握しよう
- パーク&ライドなど自動車に頼らない移動手段を考えて実行しよう
- エコ通勤・通学にできるところから取り組もう



気候変動適応・ライフスタイル



気候変動への「適応」とは、現実や予想される気候及びその影響に対して自然や人間社会のあり方を調整していくことです。

16 気候変動への「適応」について、一緒に学ぼう♪

- 気候変動によって松本に生じている変化について知ろう
- 気候変動対策を地域課題解決と合わせて考えてみよう
- 気候変動の体験を地域で共有しよう

17 農ある松本の暮らしを持続させよう！

- 農業・農産物に関心を持とう
- 地元で作ったものを食べよう
- 規格外農産物を積極的に消費しよう

18 私たちの日々の消費がゼロカーボンにつながる！

- ものを買うときに地産地消を意識しよう
- 運送輸送にかかるCO₂を知り、物流の環境負荷を小さくしよう
- 家電製品を買換える時には省エネ型の製品を選択しよう

19 ごみの削減、資源循環にいっそう取り組もう！

- 3R(リユース、リデュース、リサイクル)を徹底しよう
- 食品ロスについて学び、実践しよう

20 里山も街も緑を充実させよう！

- 森林吸収源としての役割が果たせるよう森林保全に地域で取り組もう
- 身近な生活環境に緑を充実させよう

信州大学と松本市が、共同で 気候市民会議を開催しました



松本市は、2020年1月に世界首長誓約/日本に署名し、同年(2020年)12月には、気候非常事態を宣言するとともに、2050年までに二酸化炭素をはじめとする温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指すことを表明しました。このゼロカーボンシティの実現に向けて、2024年、信州大学と共同で、市民の皆さんが気候変動について話し合い、行動できるような市民目線の取組みを考える場として「気候市民会議まつもと」を開催しました。

無作為抽出(くじ引き)で選ばれた市民約50人が専門家からの情報提供を踏まえて意見を出し合い、気候変動対策(アクションプラン)をまとめました。

気候市民会議まつもと 実行委員会 とは?

参加者への情報提供、熟議のコーディネート、意見やアイデアを踏まえたアクションプラン案のとりまとめなどを円滑に進めるため、信州大学・松本市・Y-CAMからなる実行委員会を結成しました。

Y-CAMとは?

気候わかもの会議まつもと
Young Climate
Assembly Matsumoto

気候市民会議を松本で行うにあたり、有志の市内在住・在学の学生から成るY-CAM(気候わかもの会議まつもと)を組織しました。

気候変動についての学びを深め、会議前の資料作成や当日の進行、会議結果の取りまとめなど、幅広い実務で支援していただきました!

気候市民会議まつもとに 参加して気づいたこと

アクションプラン作成に携わった市民の方・Y-CAMから、気候市民会議まつもとでの情報提供や意見交換を通じて得た気づきなどを紹介します。

子どもに良い環境を残したいと思いこの会議に参加しました。会議を通して学んだことを自分の言葉で伝えられるようにしていきたい。今後も学び続けていきたいと思っています。

参加者 O さん

会議に参加してから、車に頼りきりだった生活を変えて、休日は車を使わず歩くようになりました。これからは、周りの友達や身近な人に会議で学んだことを伝えていきたい。

参加者 F さん

今までは物を買うときは、価格の安さを基準にして選ぶことが多かったが、この会議に参加してから、地産地消のことを考えたり長く使えるかどうか、地球にやさしいかどうかを基準に購買行動をするようになりました。

Y-CAM

共感者を少しずつ増やしたいです。この会議に参加してから家の断熱を自分でやってみました。ポリカーボネートを貼った上に断熱カーテンをしたら、暖房の温度を上げなくてもすごく温かくなりとてもびっくりしました。こういう話題を誰かと分かち合っ、小さいアクションを広げていきたいと思っています。

参加者 K さん



今就活中なのですが、企業選びにゼロカーボンの視点を導入してみたいと思う。若者がゼロカーボンのことを基準にしていることを伝えるいいチャンスだと思います。

Y-CAM

お問合せ先

気候市民会議まつもと実行委員会 事務局

松本市 環境・地域エネルギー課

TEL:0263-34-3268



信州大学 グリーン社会協創機構

TEL:0263-37-2146



庁 議 資 料
7. 4. 7
環境エネルギー部

(報告事項)

松本市E Vカーシェアリング事業の開始について

1 趣旨

令和7年4月1日より、専用アプリを活用した電気自動車（以下「E V」という。）のカーシェアリング事業（以下「本事業」という。）を開始したことから、事業概要及び職員の利用方法等について報告し、積極的な利用を促すものです。

2 事業概要

市役所本庁舎ロータリー部に新たにE Vを2台配備し、平日昼間は市職員が公用として、平日夜間及び土日祝日は一般利用可能とするカーシェアリングサービスです。

サービス利用に際しては、専用アプリeemo（イーモ）を活用し、利用者個人が保有するスマートフォンにて車両の予約・開錠・返却等を一括して行います。

(1) 導入車両

ア 日産リーフ 1台

イ 日産サクラ 1台

(2) 車両のラッピング（詳細は別紙1のとおり）

本事業のPRのため、導入車両にフルラッピングを実施

(3) 事業実施者

信光石油株式会社（松本市深志2-2-9）

(4) 専用アプリeemo提供元

株式会社REXEV（東京都千代田区神田淡路町1-9-5）

(5) 事業期間

令和7年4月1日 から 令和12年3月31日 まで（5年間）

(6) 利用区分

ア 市職員による公用利用

平日 8:00 ～ 18:00

イ 一般利用

平日 19:00 ～ 翌7:00 及び 土日祝日 0:00 ～ 24:00

3 利用方法（詳細は別紙2、3のとおり）

(1) 職員各自にて、専用アプリeemoの利用登録を実施

(2) 登録後、eemoより、各個人所有のスマートフォンから車両を予約・開錠・返却

4 事業効果

本事業により、以下の効果を見込んでいます。

(1) ガソリン車からの移行による温室効果ガスの削減（想定CO2削減量：4.2トン／年）

(2) E Vの試乗車的役割を果たすことによる、利用者へのE V購入の動機付け

5 特記事項

- (1) 導入車両は公用車として市が購入したものではなく、事業実施者が提供するリース車両となります。このことから、以下対応等については事業実施者にて実施します。
 - ア 車両保険の設定及び事故時の各種対応
 - イ ノーマル・スタッドレタイヤの換装及び保管
 - ウ 定期的な車両清掃
 - エ その他サービス全般に係る対応窓口
- (2) 公用利用区分に関するサービス利用料は、環境・地域エネルギー課にて事業実施者に定額を支払うため、利用に際し各課等で負担する費用はありません。
- (3) 職員が一般利用区分で利用する際は、各個人にて別途eemoの登録が必要です。この場合、通常の料金区分に則った利用料が発生します。

6 職員利用における留意事項

- (1) 利用枠の超過について
 - ア 公用利用区分を超過して車両を利用・返却した場合、別途利用料が発生します。このことから、時間的猶予を考慮し、運用上市職員の予約時間枠は、8:00～17:15とします。
 - イ 上記の時間枠を超過することが予見できる場合、本車両の利用は控えてください。
 - ウ 利用をする中で、予見できなかった道路渋滞等不測の事態により、上記の時間枠を超過することが判明した場合は、速やかに環境・地域エネルギー課まで報告をしてください。
- (2) 利用後の車両への残置物について
カーシェアという特性上、市職員のみならず市民や観光客といった様々な方が本車両を利用することになります。こういった事情を鑑み、公務で使用した書類や機材等を、利用後の車内に残置・遺失することのないよう、くれぐれもご注意ください。
- (3) 車両の返却について
車両そのものが返却されている場合であっても、アプリ上で返却処理がなされていないと、システム上では車両が返却されたことにならず、超過料金の発生や以降の車両予約ができないといったトラブルに繋がる可能性があります。利用終了後は必ずアプリ上で返却処理を実施してください。
- (4) カーナビゲーションシステムの使用について
安全面の観点より、車両走行中は運転者によるカーナビゲーションシステムの操作は行わず、同乗者もしくは停車中に行ってください。

7 サービスの積極利用について

- (1) 公務において、導入車両は全職員利用可能なものです。既に運用している共用車両と同様の扱いが可能ですので、職員の積極的な利用をお願いします。
- (2) 公務外においても、EVを気軽に体感できる存在として、職員本人のみならず、家族・知人等にも利用を勧めていただき、今後のEV購入検討の一助として頂くようお願いします。

担当 環境・地域エネルギー課 課長 鈴木 博史 (内線1440)
--

2050

松本市はゼロカーボンシティを目指します。

